

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[tstcon コマンド 詳細](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、tstcon コマンドの詳細について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

tstcon コマンド 詳細

tstcon コマンドは相手先固定接続 (PVC) の継続および機能をネットワークによってデータを渡すテストします。コマンドは埋入的で、簡潔に割り込まれるためにテストされる接続のデータを引き起こします。

tstcon コマンドが発行される時:

- ソフトウェアは Frame Relay PAD (FRP) /Frame リレー モジュール (FRM) をリモート ループバックを要求するリモート エンドにメッセージと共に「tstframe」を送信するように 告げます。
- FRP/FRM は送信します「tstframe を」。
- ソフトウェアはカードを応答を探すために「getframe」を発行するために見分けます。
- 「tstframe」が受け取られれば、ローカル エンドは結果を宣言します:「tstframe」がそっくりそのまま返される場合、tstcon のステータスは完了し、結果は「良いです」。「tstframe」

がリモート エンドから戻らない場合、**tstcon** の結果は「失敗します」。送信されたときに「**tstframe**」がリモート エンドから戻るが、不完全または異なっていればと、結果は「失敗します」。

これらの状況により **tstcon** は打ち切ります場合があります:

- カードは別のタスクを、バックグラウンドテストのような、同時に実行します。
- **tstcon** は **tstcon** を取り消すリモート エンドから同時に発行されます。
- 手動 ループバックはリモート エンドで始められます。
- 接続はありません。
- 接続のエンドポイント カードは失敗しました。
- 接続のパスのトランクはメジャー アラームに、「comm-fail のような」、信号消失 (LOS)、等あります。
- エンドポイントノードは「Comm Break に」互いにあります。

注として最初にもたらされ、オペレーショナル ユースのためのツールとして意図されていません。

関連情報

- [WAN スイッチング製品のための新しい名前とカラーのガイド](#)
- [ダウンロード : WAN スイッチング ソフトウェア \(登録ユーザ専用\)](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)